

100の一步

66 特別支援学校と日吉駅の交流

「言葉を使わずにジェスチャーだけで、困っていることを伝えてみましょう！」

体を揺らしたりして伝えてみますが、なかなか伝わりません。

神奈川県立中原養護学校の先生による駅長研修「障がいについて学ぶ研修」でのひとコマです。



「困っている」をジェスチャーだけで伝えてみる

神奈川県立中原養護学校はグリーンライン日吉駅からバスで5分のところにある特別支援学校です。

ある日、学校の先生より、仕事はありませんか？とご相談いただいたことをきっかけに、日吉駅との交流が始まりました。

特別支援学校には、社会に出て生きる力や働く力を体験的に学ぶ「作業学習」という授業があります。

授業の一つとして、日吉駅の時刻表を2つ折りにする作業を依頼しました。その後日吉駅の職員が学校を訪問し作業学習を見学するなど交流を続けてきました。

今回は先生をお呼びし、全駅長を含む駅務管理所責任職に向けて研修いただきました。



2つ折り作業していただいた時刻表



見学時に迎えてくれたウェルカムボード

特別支援学校では、仕事の体験とともに、時間を守ることや言葉遣いなどのマナーも学んでいるそうです。

生徒さんの中には電車やバスを使って通学している人も多く、時間通りにくる電車が大好きな人もたくさんいるそうです！

それぞれ障がいがある方の苦手なことや支援のポイント等も教えていただきました。

駅長からは、お客様が困ってパニックになってしまった場合、どんな声掛けをすれば安心していただけるか？といった具体的な質問もありました。

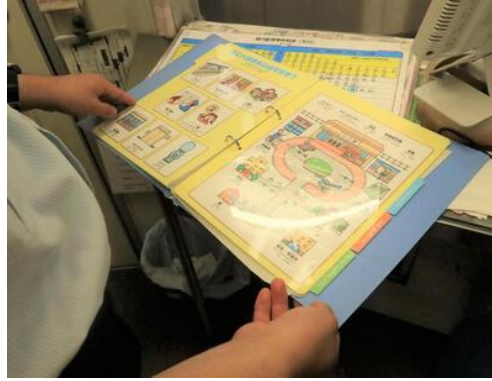
怖いことや困っていることが上手く伝わらない時、聞く側はどんな工夫ができるのか。

ポイントは、ゆっくり話す。身振りを入れて話す。文字や絵を使って話す。短い文にして話す。とのこと
地下鉄全駅に用意しているコミュニケーションボードも活用できます。

「一生懸命聞こうとしてくれることは伝わるので、それで安心することもあります」と先生からの心強いお言葉。
お客様に寄り添う姿勢を大切にしたいと改めて感じる研修でした。



中原養護学校の先生



駅に設置してあるコミュニケーションボード